

男女共同参画へ一歩いっぽ。〔パ・ザ・パ〕

# Pas à pas

No. **24**  
2015 MARCH



P2～7 特集 ポジティブ女性のライフスタイル「私たち、こんなことやってます！」

## BE POSITIVE !!

あなたにも できる。私にも できる。

- P8、9 平成26年度静岡市女性の活躍応援事業所表彰  
P10、11 女性の活躍応援事業所紹介 株式会社アクタガワ  
P12 ワーク・ライフ・バランスシンポジウム



# BE POSITIVE !!

あなたにも できる。私にも できる。

自分らしく生きるために  
何かをしている人はさりげなく輝いています。

あなたにもできる。私にもできる。  
特別なことはいりません。  
そのままのあなたで大丈夫！

あなたもちょっとだけ勇気を出して、  
新しい一歩を踏み出してみませんか。



今回の特集では、私たちの身近なところで活躍する  
「ポジティブウーマン」8人にスポットをあてました！



## 身近で働く大人たちのカッコ良さを伝えたい！

板倉 りえこ さん

子どもと地域と仕事をつなぐ情報紙の編集スタッフをしています。5人家族で子どもは2女1男。子育て歴すでに20年。末っ子が成人するまでまだあと10年と思うと…長いなあ〜と思う今日この頃です。

「コドモンデ」という主に小・中学生向け情報紙を2011年から発行・編集しています。

「まちのお仕事図鑑」の特集では、地元の企業や仕事を紹介、子どもと地域と仕事をつなぐツールとして、学校を通して静岡市内の子どもたちに配られています。

取材する際は、仕事内容はもちろん、その人の仕事へのこだわりや大切にしていること、良いことばかりでなく大変なことも聞いて、その人らしさが伝わる記事を書くように心がけています。

「読んでよ！」と声を掛けられたり、学校の授業で活かしているという話を聞いた時は、活動していて本当に良かったと思います。



情報紙を通じて身近で働く大人たちのカッコ良さを伝えたい！子どもたちが、地域の企業や仕事をする人を知ること、未来に向けて夢をもち、仕事の引き出しをたくさん持ってほしいと考えています。

また、静岡市こどもクリエイティブタウンま・あ・るのスタッフを2年前から始めました。子どもたちがいろいろな人と関わり、学び、成長する力は本当に素晴らしい！その姿を見守れることに感謝しています。

大人だって（子どもほどではありませんが）、学び、成長し、変化できるぞ！と、子どもたちに学んでいる日々です。

## 視覚障害の方々に応援したい

杉山 静子 さん

視覚障害の方のために本を音声にする音訳ボランティア「ひびきの会」代表。活動は、10年目になります。そのほか手話サークル「あおいの会」にも所属しています。現在、夫と息子(三男)の3人暮らしです。

音訳ボランティアには前々から関心があり、仕事を辞めてから市の広報紙を見て講習を受け、活動に参加しました。

基本的には図書館の蔵書を中心に音訳しています。新刊書を選ぶこともありますし、リクエストに応じ専門書を音訳することもあります。また、テレビ、ラジオの番組ガイド等も音訳しています。

1冊の図書は一人で読み、二人で校正します。録音媒体は、以前はテープでしたが、今ではCDが主流になっており、全国の図書館を通じて貸し出されています。

活動で大切にしたいことは、ただ単に録音するだけではなく、視覚障害の方々の生活に何が必要



なのかを考えていくことです。いろいろ学びながら、継続することの大切さを、先輩に教えていただきました。

手話の方はなかなか上達しませんが、現在「親子手話教室」のお手伝いに参加していて、子どもたちの成長を見るのがとても楽しみであり、活動の支えにもなっています。

誰も活動のための時間の捻出には苦労なさるようですが、心の面でいつも準備をしていれば、機会をとらえて、スムーズに活動に取り組めるようになるのではないのでしょうか。

常にアンテナを高くして、世の動きや人々の生活を見つめていくことが大切ではないかと思います。

(取材協力/ひびきの会 秋山紀恵さん)





## パママのイキイキとした姿を子どもたちに見せて！

鈴木 とみ子 さん

竜南学区で子育てサロンを立ち上げ運営しています。また、ママが気軽に参加できるお料理教室の場などを提供したり、行政相談委員として地域の人からの相談を受けています。現在、夫と2人暮らしです。近くに長男家族（孫2人）、浜松に長女家族（孫2人）が住んでいて、子どもたち家族からのSOSに応じて駆けつけています。

13年前、主任児童委員になった際に、「どの子どもにも幸せな人生を送ってほしい」と強く感じました。それには多くの時間を一緒に過ごしているパパ・ママがイキイキと前向きに頑張っている姿を子どもに見てもらうことが大事ではないかと思うようになりました。そして6年前、子育て中のママたちの交流の場の必要性を感じ、地域の皆さんの力を得て、子育てサロン「ストロベリー」を立ち上げました。来て良かった！と思って頂けるように、笑顔でお迎えし、ママの気持ちに寄り添った言葉かけをするよう努めています。ママがおしゃべりを楽しんだり、勉強している姿は、お子さんに良い影響を与えてくれると思っています。

また、0歳児の赤ちゃんを抱えたママは周囲とのかかわりが薄く、孤立しがちであることから、



2年前に0歳児とママを対象とした「ぶちストロベリー」の立ち上げに関わりました。ある時、育児ノイローゼ気味になってしまったママに出会いました。「赤ちゃん可愛いねえ。泣いてママにお話しているんだよね」等々の声掛けで笑顔になったママ。「育児で悩んでいるママの居場所を用意して本当に良かった」と、改めてサロンの必要性を痛感しました。

また、サロンでママに紅茶を出したところ、「久しぶりに温かい飲み物を飲んだ！」と言う感想を聞いて、日頃子育てに多忙なママたちのために、手軽で美味しいお料理を学ぶ場の提供も始めました。最近はパパの参加もあり、パパ同士の交流の場にもなっています。



## 親子でつながろう、地域社会と！

高田 たまき さん

「かるがもレスキュー」という、未就学園児から小学生の親子を対象に大人も子どもも楽しめる工作やお料理、日本文化を体験する定期プログラムの開催や親子講座の企画、パソコン事務の代行業をしています。夫と4歳の娘の3人家族です。

「かるがもレスキュー」は、未就学園児から小学生の親子を対象に、大人も子どもも楽しめる工作やお料理、日本の文化を体験する定期プログラムを開催しています。

今でこそ子育て情報や公共サービスを上手に活用できるようになりましたが、娘が2歳位になるまでは、子育て支援を発信してくれている地域社会とのつながりを探すことが難しく感じていました。

「親子で地域とのつながりを持ちたい」、そう思って、地域の方の手を借りて、工作講座を企画しました。それがこの活動を始めたきっかけです。谷津山で竹を切り出し、竹の水鉄砲を作ったり、竹筒でご飯を炊いたりしました。そのご飯の美味しかったこと！ご飯の器も竹筒だったので親子に大ウケ！「頑張って良かったな」と思った瞬間でした。

しかし活動を続けていくにつれ行動範囲が広がり、活動と家庭との調和がとれず、体を壊したこ



ともありました。やはり「家族」と「健康」、それらも大切にしなければ、活動は維持できないと思いました。

そしてもう一つ、私の活動の支えは、「同志との出会い」です。勇気を出して声をあげてみると、驚くことに同じ想いの方々や協力してくれる方がいっぱいいました。このキラキラ輝く方たちとの出会いは感動ものです。「一人じゃない！」と思うと、大変な時でも何とか乗り越えられるものです。

人と違うことや初めての世界に飛び込むには思い切りが要ります。周囲の理解も様々でした。でも本当にやりたいことって、頭ではなく身体が動くと思うのです。勇気を出して飛び込んだ世界には、今までの自分には見えなかったものが見えました。今後の目標は、「継続」！細々とでもいい、想いを止めないこと。これからも継続して歩いていきます。

## 「絵本の世界」、「音楽の世界」… 新しい世界へと

### 前澤 幸枝 さん

おはなし工房「ぐるんぱ」代表。そのほか、由比交響吹奏楽団&清水ウインドオーケストラでクラリネット担当、自治会事務局、お祭りステージの裏方など、色んなことに挑戦しています。普段は大学生の息子と2人暮らしですが、たまに帰省する娘と過ごすのが楽しみです。家には息子の友達、ぐるんぱや吹奏楽団の仲間が集まり、賑やかな日もあります。月～土曜まではおふくろの味メインの山あい的小さなお店で働いています。

おはなし工房「ぐるんぱ」は、二人の子どもがまだ5・7歳の頃、地域の子どもたちに色々な本を紹介していこうと仲間が集まり発足したグループです。今では、清水区小島、両河内地区の幼稚園、小中学校で、本やおはなしの読み語り、ボードビル（人形劇）などを行うボランティアグループとして活動しています。子どもたちの前で話をすると、キラキラとした素晴らしい顔に出会えます。準備にも手間がかかりますが、仲間と支えあって頑張っています。

また、子どもたちが高校、大学へと進学し、少し自分の時間ができた頃、高校時代の先輩に誘われ吹奏楽団に入団しました。自分の子ども位の若いメンバーから人生の先輩まで、何十人もの人が集まって一つの音楽を作り上げてゆくことは厳しい練習を越えてこそその大きな楽しみとなっています。

目一杯仕事をして家事をこなし、更に好きなことをしようとするれば当然時間もお金も労力もきり



がありません。体調が優れない時には趣味より仕事が優先、子どもが小さい頃は子どもが最優先と、我慢も必要です。

何か新しいことを始めようとするとき、一番の障害は、自分で「無理！」と壁を作ってしまうことだと思います。私自身そんな時期もありましたが、助けてくれる人、協力してくれる人、支えてくれる人が現れ、道が開けました。

子どもが小さい頃に離婚し、精神的にも体力的にも辛い時期はありましたが、子どもの成長と共に現れる新しい世界に次々に飛び込んで行くと、そこには私を支えてくれる温かい仲間がいて、無上の喜びが溢れていました。仕事、ボランティア、趣味といつの間にもこんなに沢山と我ながら驚いています。新しい世界に飛び込むためには、ものすごいエネルギーと勇気が必要です。しかし飛び込んでしまえばそれ以上のパワーが周りから返ってきます。大丈夫！

## ママ目線を活かしてハンドメイド

### 村上 美香 さん

子育てイベントや、レンタルボックスでハンドメイドの布小物を販売。育児や主婦業の経験を活かして、かわいくて便利なものを作っています。

現在、夫、義母、子ども（10才、3才、0才）の6人暮らしです。

「ミコロン」という作家名で、スタイ（よだれかけ）や食事用エプロンなど、赤ちゃんグッズのハンドメイド布小物を作り、子育てイベントへ出店したり、インテリア雑貨店のレンタルボックスなどで販売をしています。

布小物を作るきっかけになったのは、長男の幼稚園入園用品を作ったことです。一枚の生地が、色合わせや作るものによって色々変化して仕上がりが、完成した際には達成感を味わえるハンドメイドの楽しさを知り、「もっと作ってみたいな」と思いました。また、自分や家族のためだけでなく、多くの人に喜ばれるような物も作ってみたいくなり



ました。イベントなどで販売していると、お客様の声をたくさん聞くことができ、「かわいい」とか、「使ってみたらとっても良かった」、などと言ってもらい、さらに創作意欲が湧いてきます。

家事や子育てをしながらの制作ですが、私にとってはその時間が楽しく、息抜きとなっています。

イベント前など忙しく、両立が難しい時は、家族に協力してもらい、制作時間を取るようになっています。最近3人目を出産したので、そうした経験を活かした作品も作っていただけたらと思っています。



## 患者さんが納得した医療を受けるために

森田 みつ子 さん

静岡医療コミュニケーション研究会代表。患者と医療者との相互理解を深めるためには、医療者のコミュニケーション能力の向上が大切であることから、「模擬患者」の養成と派遣を行っています。現在、夫と2人暮らしです。

病院の非常勤の薬剤師として勤務していた時、市保健所主催の医療者コミュニケーションの研修会に参加。実際に模擬患者と薬剤師、医師とのセッションを見学し、いかに患者さんとのコミュニケーションが大切であるかを実感しました。

研究会の主な活動は、模擬患者の育成や、模擬患者を使った医療関係者の研修会の企画、実施です。また市民啓発を目的とした医療に関する講演会も年1回開催しています。

薬剤師として会に参加しましたが、患者さんの気持ちをより理解するために、今はもっぱら模擬患者をしています。医療関係者や研修参加者から感想や感謝の言葉を耳にすると、「やっていて良かった」と実感します。



研修に関わった仲間と苦労して作成したシナリオや、役作りにおいて、研修後、達成感や充足感、連帯感を味わえることにやりがいを感じます。研修会の前には何度も事前練習し、研修相手の医療者に本物の患者だと思ってもらえるよう励んでいます。

「何事も継続は力なり」。自分を支えている言葉です。好きで参加した活動ですが、ここまでこられたのも、すべては会員の支えがあったからです。今も心から感謝しています。

研究会の活動が、一人でも多くの患者さんがよりよい医療、そして納得した医療を受けられるための手助けになればと思っています。



## 「地域のつながりづくり」を応援したい

弓削 幸恵 さん

NPO法人「まちなびや」で活動しています。子どもが自由に遊べる環境作り、子どもとまちの多様な人々との出会い・交流の場作り、情報紙発行をしています。現在、夫と中1の息子の3人暮らしです。

子どもの社交場として「駄菓子屋」を事務所の一角に設け、運営しています。また毎月発行する情報紙では取材記事を書いたり、イベント関連では「お店屋さんごっこ」や谷津山での「冒険遊び」、働く大人の姿にふれる「お仕事見学ツアー」などを企画・開催したりしています。

この活動の原点は、前職での地域資源の活用をテーマにした研究でした。子どもたちの学習で地域の人材や環境を取り上げたところ、確かな有効性を感じ、これを実践・継続していこうと事務所を開設。2012年にNPO法人「まちなびや」となりました。

ある時、小学生が地域の店の店長さんに取材をしたのですが、店長さんは大人と接するのと同じ



ように、子どもたちに名刺を差し出し挨拶してくれました。そのやりとりに私はとても感動しました。多様な人々との出会い・交流を、もっと自由に、もっと日常のものにしたいと思っています。

これからも子どもたちの「地域のつながりづくり」を見守り、応援していきたいです。

活動においても趣味においても、やりたいと思った時がタイミング!! 最近では、洋裁を習ったり、「おしゃべりものづくりの会」というグループも主催しており、手を動かして楽しんでいます。逆説的ですが、「がんばらないこと」がいいんじゃないかなと思います。好きなことをいかにいろいろやって笑顔で毎日過ごせるか。ちょっとした「やったね！」が日々あったらいいな、と思っています。



自分らしく

生きるために

何かをしている人は

さりげなく輝いています。

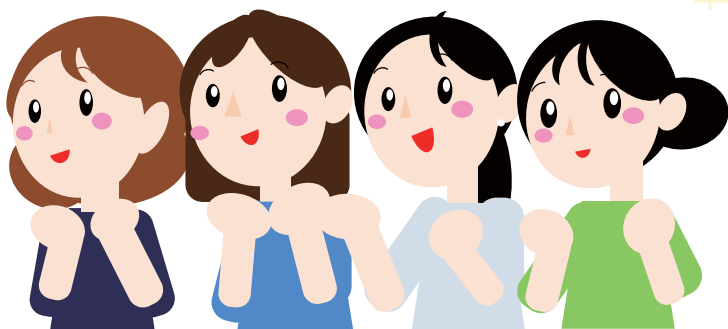
## 取材を終えてスタッフからひとこと

■ 輝く人々のお話は元気をいただけます。そして多くの人々がきっと、「その気持ちわかる！」と思ったと思います。そこでその気持ちから一歩踏み出して行動に出るか出ないかが大きな分かれ道なのだなと思いました。新しい世界に飛び込むことは勇気とパワーが必要で、でも飛び込んでみることは素晴らしいことなんだというメッセージ、心に残りました。社会のために役立つこと、でも実は自分の人生を豊かにするもの、私にもできることを探してみたくなりました。(小針)

■ みなさん、それぞれのいろいろな環境、立場の中、生きがい、やりがいを見つけて活動されていて、きらきらと輝いていて、とても素敵で羨ましく感じました。私も何か生きがい、やりがいを見つけて頑張りたいと思っていますが、なかなか見つかりません。どうしたら見つかるでしょうか。(鈴木)

■ 活き活きと活動されている皆さんのお話を聞いて、こちらまで心が元気づけられ、前向きになりました。活き活きとされている方は、周りの方も明るくしてくれるのだな…と再認識しました。また、自分が何をしたいのか、何ができるのかと自分自身と向き合う姿に、私もそうでありたいと思いました。つつい"忙しい"を言い訳に向き合うことから逃げてしまうのですが、一歩前進するためには大事なことだと思うことができました。(高田)

■ 末っ子が幼稚園に行くようになり、自分の時間がぐんと増えたはずだったのに！ 学校行事、PTA、単発で請け負う仕事など、細々した用事も増えてしまったのが現実。それでもこのひとり時間をもっと有意義に過ごせないものかなと模索していました。この特集にあたり、一人目が小さかった頃、自己啓発の講座を受けたりママたちと活動したりしていたことを思い出しました。今回8人の女性にインスパイアされ、忘れかけていた自分磨きを再び頑張ってみようと思います。(比留間)



### 《お詫びと訂正》

バザパ23号インタビュー記事において、編集段階で、誤解を招きやすい表現を使用しましたことをここに  
お詫びし、訂正させていただきます。

P 5 中見出し

- (訂正前) 間違った価値観「ジェンダー」  
- DVの背景にあるもの  
(訂正後) DVの背景にあるもの  
- ジェンダー・バイアス

## 平成26年度 静岡市女性の活躍応援事業所表彰

平成27年1月16日、「平成26年度静岡市女性の活躍応援事業所表彰」の表彰式が行われ、田辺市長から受賞事業所5社の代表者に対し表彰盾と記念品が贈られました。

静岡市では、平成21年度より「ワーク・ライフ・バランス推進事業所表彰」としてワーク・ライフ・バランスに関する取組を積極的に実施している事業所を紹介してきました。

平成26年度からは「女性の活躍応援事業所表彰」と名称を変え、女性の活躍応援に積極的に取り組んでいる事業所を表彰します。受賞された事業所の取組は、他の事業所の参考としていただくよう、積極的にご紹介させていただき、ワーク・ライフ・バランスの一層の発展を支援します。



### 株式会社女性イキイキカンパニー

女性が多い職場ならではの環境整備に積極的に取り組み、オーダーメイド雇用による個別対応での就業時間の調整や上司からの呼びかけによる有給休暇の取得促進、勤続年数による表彰などの取り組みが高く評価されました。



### 株式会社アクタガフ

多様な社員のニーズに対応した就業形態変更制度を設け、子育て・介護中の社員も無理なく働ける環境整備が非常に先駆的であると高く評価されました。



## 女性の活躍で 業績アップ！！



※商業労政課のホームページもぜひご覧ください。

静岡市 商業労政課

※また、10ページ、11ページでは、大賞を受賞した株式会社アクタガワを紹介します。

## 特別賞（2社）

### 株式会社松岡カッター製作所

時間単位の有給休暇制度や、業務での多能工化を図られるなど、ワーク・ライフ・バランスの実質的な対応策としての取り組みが多く、従業員の生活を社内全体でフォローできる環境づくりを行っています。

### 株式会社リンク・アンビション

子育て中や急な用事の際に在宅勤務を可能とし、SNSを活用しての情報共有や会議を実施するなど、新しい柔軟な勤務へのありかたの可能性を開き、女性の働きやすさを促す取り組みが特徴的です。

## 奨励賞（1社）

### 株式会社ホット・ブリッジ

子育て中のパート社員の働きやすい環境づくりや、育休取得者の復帰支援策として産休前にパート社員から正社員への登用を行うなど、会社全体での積極的なサポート体制が評価されました。

女性に対する暴力をなくす運動

## ひつじさるやぐら 駿府城公園 坤櫓

### パープルライトアップを実施しました

（実施期間：平成26年11月12日（水）～11月25日（火））



毎年11月12日から25日までの2週間は、内閣府の定める「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

この期間中、東京タワーをはじめとする全国各地の有名施設において「パープルライトアップ」が実施されています。（紫色は、「女性に対する暴力をなくす運動」のイメージカラーです。）

平成26年度は、全国で32か所の施設においてライトアップが実施されました。

静岡市は今年度このイベントに初参加し、昨年春に完成したばかりの「駿府城公園坤櫓（ひつじさるやぐら）」をライトアップしました。

キャンペーン初日のオープニングイベントでは、幻想的なパープルキャンドルの灯りの中、SPAC俳優 たきい みき さんに、暴力根絶への思いを込めた詩の朗読をご披露いただきました。また、パープルの優しい灯りに包まれた坤櫓のもと、大きなホワイトツリーに参加者全員でパープルリボンを結び、女性に対する暴力をなくす社会の実現を祈りました。

# 多彩な勤務形態を用意

## — 株式会社アクタガワ —

株式会社アクタガワは、静岡県駿河区に本社を構え、県内各所で介護事業を展開しています。

今回は、平成26年度静岡市女性の活躍応援事業所表彰において大賞を受賞された株式会社アクタガワの代表取締役 芥川崇仁様にお話を伺いました。



### 働きやすい環境整備

今回の受賞の大きなポイントとなったのは、多様な社員のニーズに対応した就業形態変更制度を設け、子育て・介護中の社員も無理なく働ける環境整備が非常に先駆的であると評価していただいたことにあります。

定年を65歳に延長し、ワーク・ライフ・バランス推進のために様々な「働き方」や「制度」を積極的に取り入れています。

介護サービスは24時間体制です。社員が無理なく働けるような環境整備、つまり働きやすい制度・職場づくりは、会社を作った時からのテーマでした。

特に女性は、新卒で入ったころはバリバリ働けるけれど、結婚してお子さんが出来るとどうしてもそれまでより時間に制限が出てきてしまいます。そこで「お子さんが小さいうちは少しセーブした形の勤務形態に切り替えて、お子さんが成長したころにまた働き方を元に戻し、バリバリ働いてキャリアアップを目指す」という



ように、人生のいろんなタイミングで、柔軟にその時の生活に合った勤務形態に切り替えて働きたい、というニーズがあります。

我々雇用者が、いかにそれぞれの社員に働きやすい環境を用意してあげられるか、ということがポイントです。

個人に合わせてそれぞれの制度をつくっていったら、そうすることで社員一人ひとりが主体的にキャリア形成ができるようになり、個々の能力を伸ばすことにつながるのだと考えます。産休、育休のほか、4歳から小学校3年生までの子（または孫）を持つ社員の短時間勤務が可能となる「子育てコース」や、家族内に要介護者を持つ社員のための短時間勤務「介護コース」、管理職を一旦離れる「管理職TB (temporary break) コース」、自身のスキルアップのための「再チャレンジ・キャリアアップ制度」など、生活状況に応じた制度を用意しています。

多彩な支援制度のおかげで入社希望者が増加したのはもちろん、採用後も柔軟なコース変更が可能となったことにより、退職者も減少。人材確保につながりました。

## イキイキとした社員を育成

当社は、「顧客第一主義」から「社員第一主義」に方針を切り替えました。

サービス業ですから、お客様に良いサービスを提供しなければなりません。そのためには、社員一人ひとりに生きがいを持ってイキイキと働いてもらう、ということが重要です。

「社員がみんなイキイキしている雰囲気だな」とか、あるいは「そうではないな」というのは、お客様がご覧になればすぐわかるものです。

イキイキとした魅力的な社員が働いていれば、それがお客様へのいいサービスへとつながる。また、そういった社員にファンのお客様がいてくださることで、顧客確保も期待できます。

仕事も趣味も全力投球できるような会社でありたい、そんな思いからできたのが「趣味対応コース」。年に1回利用可能で、趣味に長期間没頭したい場合、3か月単位で最長1年の長期休暇が取得できます。例えば、「毎年2か月間はハワイにロングステイしてサーフィン三昧、プロ資格取得を目指したい!」ということも夢ではありません。

期間中は無給ですが、社会保険への加入扱いが可能です。

このほかにも、趣味活動のための「趣味休暇制度」が用意されており、年1回、趣味活動のために最大3日の特別休暇を取ることが可能です。

## さらなる進化を目指して

当社は、社員一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、人生の各段階に応じて多様な生き方を選択・実現できることを目指しています。

今後も新たな制度を積極的に取り入れ、更な

るワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいきます。

(そのほかのバックアップ制度 抜粋)

◆「地元で働こうコース」(地域限定社員制度)  
転居を伴う転勤がありません。家族と離れず過ごせます。

◆拠点長虎の穴コース(拠点長短期養成コース)  
入社研修終了後、強制ジョブローテーションにより6か月サイクルで全サービスを経験、通常だと最短でも6年かかる拠点長就任を3年で目指せます。

◆いきなりエグゼクティブコース(取締役養成コース)  
入社研修終了後、特別育成コースを受け5年間修業、執行役員以上に就任。

◆育自休暇制度(自分を育てる休暇)  
留学・資格取得等、個人能力のステップアップのための退職であれば「再入社権利書」を発行。3年以内なら復職できます。

◆独立aid制度  
デイカ訪問介護または会社が認めた事業の社長として独立するための全面協力をします。

◆家族介護支援制度  
要介護の家族を自分の職場に同伴して預けることができます。



### 株式会社アクタガワ

事業内容：介護関連サービス事業 等

所在地：静岡市駿河区馬淵一丁目8-1

電話番号：054-280-5588

従業員数：603名(男性159名、女性444名)

正社員206名 パート284名

平成26年11月現在

ホームページ：

<http://www.staff-akutagawa.co.jp/>



効率的に働いて、しっかり休む職場にしませんか

## ワーク・ライフ・バランスを推進し、 女性の活躍促進と業績アップへ



平成26年11月5日、しずぎんホールユーフォニアにおいて、「ワーク・ライフ・バランス シンポジウム」を開催しました（厚生労働省・静岡労働局 共催）。

小室淑恵さん（株式会社ワーク・ライフバランス代表）による基調講演では、「福利厚生ではなく、企業発展のための経営戦略としてワーク・ライフ・バランスの推進が必要。ライフが充実すれば、人脈、アイデア、スキルが得られ、結果的にワークの質と効率が高まる。」とワークとライフの相乗効果について解説。

今、多くの企業が抱える問題として、「女性を採用・育成できない」、「出産・育児にあたり継続して働きづらい」、「長時間残業の恒常化」等を指摘し、「今後、企業においては、女性に限らず男性を含め全社員の働き方の見直しや、今までと違っ

た基準での評価・人材育成が必要となる。これからは決められた時間内で高い成果を出す社員を評価・育成していくべき」と呼びかけました。

また、事例発表として、県内3事業所（しずおか信用金庫、大和リース株式会社静岡支店、矢崎計器株式会社島田製作所）の皆さまに、ワーク・ライフ・バランスへの積極的な取組みをそれぞれ紹介していただき、パネルディスカッションを行いました。

### ◆ワーク・ライフ・バランスとは

「仕事と、家庭や私生活との調和」のこと。

企業の成長や持続的発展、優秀な人材の確保には、働き方と休み方の見直しによりワーク・ライフ・バランスの推進を図る労働環境の整備が必要です。労働者一人ひとりを大切にすること、労働環境を良くすることは、結果的に経営の課題にもプラスになり、経営者労働者双方にメリットが生まれます。

### パザパ24号のご意見・ご感想をお寄せください。

〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1 静岡市生活文化局市民生活部男女参画・市民協働推進課  
（平成27年4月1日より、機構改正に伴い課の名称が「男女参画・多文化共生課」に変わります。）  
TEL：054-221-1349 FAX：054-221-1782 E-mail：sankaku@city.shizuoka.lg.jp